

# 総合討論

## -ALOS運用期間において発展したこと-

- 地表変動（地震，火山，氷河，地盤沈下，地滑り）検出の一般的なツールとなった（研究のみならず，地震・火山活動評価）。
- 広域的（海溝型地震に伴う）地殻変動の検出
- 時系列解析（PS-InSAR, SBASなど）に関する研究が進み始めた。
- ピクセルオフセット，MAI, ScanSARなど，新たな解析手法
- UAVによるSAR観測

# 総合討論

-ALOS-2に期待すること-

ALOS-2は2013のNovember first!

- 観測の継続性（干渉可能ならば◎）
- 電離層擾乱の補正（広帯域化）
- 高干渉度
- 高時間分解能
- ピクセルオフセットは高空間分解能（観測幅も大切）
- 地震・火山活動の早期把握

12月12, 13日にALOS-2/3WS

ユーザーの要求を伝える重要な会議！

# 総合討論

## —今後の課題—

- より精度な地殻変動を得たい（1cm/obs.）！  
大気遅延擾乱（数値気象モデルは使えそうだけでも）  
電離層擾乱（L-band SARでは大問題，重要な課題）  
精度評価手法
- InSARの高密度地殻変動情報を生かすモデリング手法  
（地表変動メカニズムの複雑性）
- ScanSARの適用性に関する研究
- 時系列解析（PS-InSAR, SBAS）に関する研究
- 積雪による非干渉
- 世界の対象についての研究を続ける
- 多衛星データの活用
- 等等．．．

これらの解決に向けて必要なことは？

# 総合討論

## — 研究体制 1 —

ALOS開始以降，SAR研究コミュニティーは重要な枠割  
防災利用実証実験：地震WG，火山WG

- 現時点は，ALOSはアーカイブデータで実証実験
- ALOS-2に関して実証を継続するかは未定。
- 実証完了により，終了する可能性もあり。

### PIXEL

- ALOS-2,4,5,6…においても，この研究コミュニティーを継続していかなければならない。
- 今後も，東大震研特定(B)を土台とした組織を継続していく（いける）かはわからない。これが無くなると，データ共有の仕組みはなくなる。今後，どのような体制にしていくかを，よく考える必要がある。
- K&Cのように，JAXAの下組織となるのもあり。
- たとえば，JPGUの下に組織を作るのはどうか？

# 総合討論

## —研究体制2—

- 組織が固まれば、その中で予算を獲得していくことを考える必要がある。例えば、科研費の「新学術領域研究（研究領域提案型）」に応募するのはどうか？出さなきゃ当たらない！！
- SAR研究の発展のために、他分野との学際的な連携を考えていく必要がある。例えば、氷河や地滑り、地盤沈下等も含めた研究組織にしていくのが良いのでは？
- 今後、海外のSAR研究グループと、どのような関係を作って進めていくか（渡り合っていくのか）？この問題はSAR研究コミュニティだけで考えているのでは不十分。他の分野（地震、測地、リモセンなど）と連携して、考えていくべき問題。とりあえずは、SAR研究に関する組織を整えて、その組織と他分野の組織とで連携関係を作り、その中で海外との関係を考えていくべきでは？